

ロックウール化粧吸音板 ソーラトン

Siキューブの施工要領書

このたびは、弊社ソーラトンをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ごぞいます。

施工の前に、この要領書をお読みにになり、施工条件、施工方法を
充分にご理解のうえ、正しく施工していただけますようお願いい
たします。

平成 26 年 1 月

日本ソーラトン株式会社

1. ソーラトンについて

ソーラトンの原料となるロックウールは、数種の鉱石を高温で溶解し、均質で細かい繊維状にした無機質人造鉱物繊維です。

ソーラトンは、この無機質鉱物繊維をボード状に成型し、表面化粧を施した天井板です。なおソーラトンに、アスベストは一切使用しておりません。

2. 保管方法について

- ①ソーラトンは、降雨や降雪、またその吹き込みによる浸水や湿潤の害を受けないよう、常に乾燥した清潔な環境の所で保管してください。
- ②ソーラトンの四隅や角が損傷しないように安全な場所を選び、壁面から1 m以上離れた床に置くようにしてください（床に置く際は、捨て板またはシート等防湿性のあるものの上に、平らに置くようにしてください）。

3. 運搬方法について

- ①運搬に際しては、衝撃を与えたり荷姿を崩すことのないよう、丁寧に扱ってください。衝撃によっては、ソーラトンが破損することがあります。
- ②車両等の荷台には、平らに置き、運搬する時は必ず固定してください。また、横置き・縦置きでの運搬は避けてください。
- ③ソーラトン、接着剤の運搬にあたっては、転倒、落下、破損がないように荷崩れ防止を確実に行ってください。

4. 取扱方法について

- ①ソーラトンの取扱いは、油気や汚れのない清潔な手（きれいな軍手）で行ってください。
- ②梱包箱に記載してある、“ロックウール製品の取扱い上の注意”をよく読んで取り扱ってください。
- ③ソーラトン等の残材は産業廃棄物となりますので、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づいて適正に処理をしてください。

5. 工事の環境について

- ①ソーラトンの工事を行う室内の、プラスターやモルタル等の左官工事は早めに完了し、十分に乾燥させておいてください。
- ②防水・雨じまいを行い、窓には全てガラスをはめ込んでください。
- ③建物が新しくかつ相当な湿気をもっている場合は、換気・通気を良くし、少なくとも壁面に水滴のないことを確認してください。
- ④接着剤を使用する場合は、貼り付け時の室温が5℃以下にならないようにし、5℃以下になるおそれのある場合は施工を避けてください（特に寒冷地等）。やむを得ず施工する場合は、採暖等の養生をしてください。
- ⑤定期的に施工現場の湿度を測り、相対湿度85%以下に保つようにし、それ以上高い湿度の場合の施工は避けてください。寸法の伸び縮みやタワミ、接着不良の原因となります。
- ⑥配線、配管工事は、ソーラトンの施工前に完了するよう、作業手順の打ち合わせを行ってください。

6. 捨て張り下地材の施工

- ・捨て張り材（下地ボード）には、タイガーボード（9.5mm厚あるいは12.5mm厚せっこうボード）等を使用してください。
- ・野縁に留め付けるビスのピッチは、150～230mm程度としてください。
- ・ビスは、下地ボード表面とビス頭表面が、段差の無いように施工してください。
- ・ソーラトンの仕上がり結果は、下地（せっこうボード等）の良否により大きな影響を受けますから、施工前に目違い、凹凸、湾曲、目地空き、不陸等不良のないように十分な下地の点検をし、万一、目地空きや不陸がある場合は、ジョイントセメント、ジョイントテープ、サンドペーパー等で平らに仕上げてください。
- ・下地ボード目地部のソーラトン表面は、空気の流通によって汚れが発生する場合がありますので、現場状況を判断の上、ジョイントテープ等で下地目地部の処理をしてください。例えば室内気圧と天井裏気圧が異なる環境の場合は、目地部での空気の流通が起きやすいと考えますので、目地処理を充分に行う等注意が必要です。

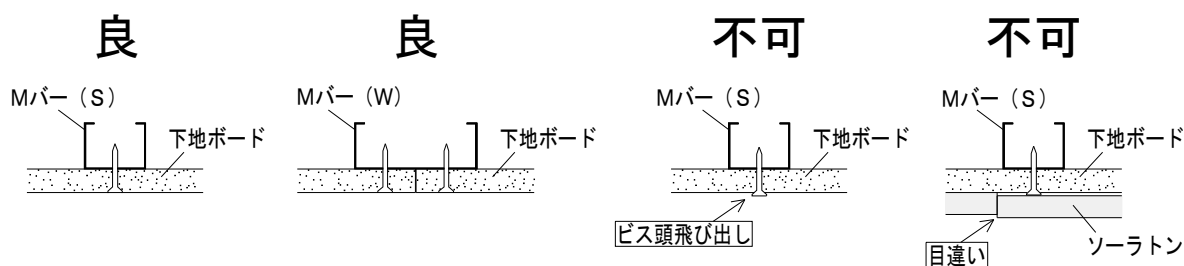


図. せっこうボードの留め方…野縁(Mバー)の場合

7. ソーラトンの割り付け

- ・ソーラトンの割り付けは、下地ボードの目地と重ならないようにしてください。
- ・クロス柄商品の場合、張り方は「流し張り（イモ張り）」をおこない、ソーラトンの目地の長さ方向と幅方向の直線を通すよう注意深く施工してください。
- ・ストライプ柄商品の場合、「レンガ張り」とし、ソーラトンの目地の長さ方向の直線を通してください。
- ・壁との取り合いや照明部などは、必要に応じて、ソーラトン平板（9mm厚）をお使いください。

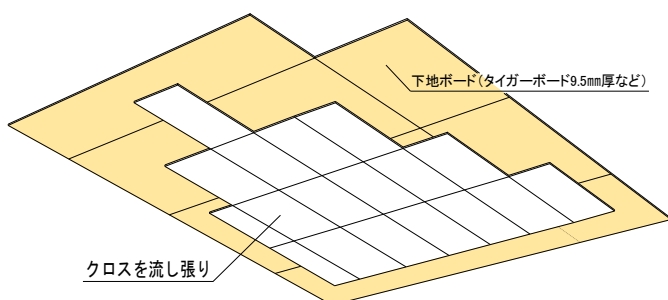


図. 割り付け(流し張り)

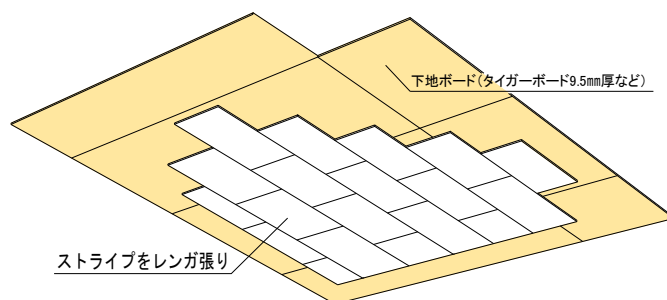


図. 割り付け(レンガ張り)

8. ソーラトンの施工

- ・必ず、接着剤と仕上釘（またはステープル）併用で施工します。
- ・接着剤は、酢酸ビニル樹脂系エマルジョン型接着剤（**推奨品：吉野サクビボンド**）を使用し、他のタイプの接着剤（ゴムのり等）の使用は絶対に避けてください。
- ・接着剤は、使用する前に充分攪拌し、ソーラトン1枚の裏面に点付け（15点以上）で塗布後、ソーラトンを手前から横にずらして所定の位置に圧着し、仕上釘（またはステープル）で固定します。

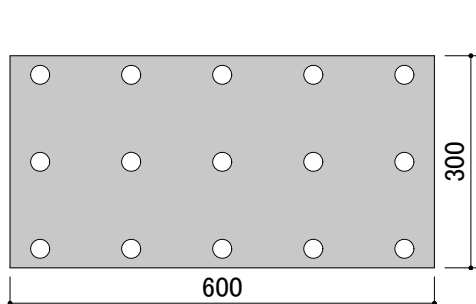


図. 接着剤[吉野サクビボンド]の塗布位置
(ボード裏面)

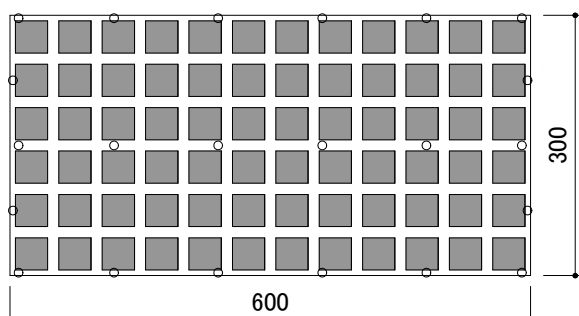


吉野サクビボンド
(3kg ポリ缶)



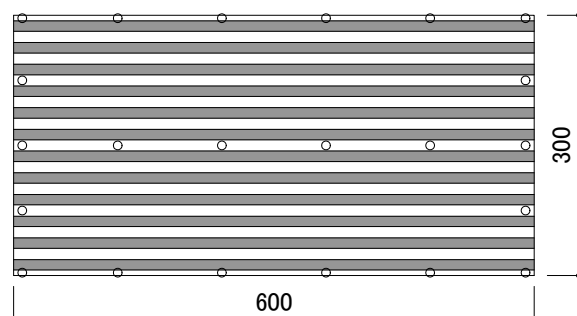
吉野サクビボンド S パック(1kg 入)
塗布量の調整が楽で、バックからそのまま塗れるタイプです

- ・接着剤の塗布量は、150～200g/m²が目安です。ボード1枚あたり30～40g。
- ・酢酸ビニル樹脂系エマルジョン型接着剤（**吉野サクビボンド**）を水等で希釈して塗布することは、接着剤の接着力を低下させ、天井板の落下や目地空き、垂れ下がりの原因となりますので絶対にお止めください。
- ・仕上釘を使用する場合は、長さ20mmのものを使用してください。
- ・ステープルの場合は、一般的に市販の肩幅4mm足長19mmのタイプを使用し、状況に応じて足長の大きいタイプを使用してください。
- ・使用する仕上釘（またはステープル）の留め付け位置は、下図（○部）を参考にしてください。目地の状態（目違い等）により6～10本を追加し、1枚当たりの本数は30本/枚を目安としてください。



※目違い等の状況により6～10本を追加

図. クロス柄の留め付け位置



※目違い等の状況により6～10本を追加

図. ストライプ柄の留め付け位置

- ・仕上釘（またはステープル）の留め付け時、工具の先端が強く押し付けられると表面が陥没しますので、試し張りを行い、押し付け加減を確認してください。
- ・仕上釘（またはステープル）がボード表面から飛び出したり、入り過ぎないようにコンプレッサーの空気圧を調整してください。

- ・ソーラトンの切断、穴あけその他の加工は、カッターナイフ等の手動工具を使用し、必ず化粧面側から行ってください。
- ・切断面が不整形の場合は、木工用の粗ヤスリかサンドペーパーをかけて平らに仕上げてください。
- ・ソーラトンは、裏面に矢印が表示されています。施工にあたっては、必ずこの矢印方向を揃えて施工してください。
- ・同じ部屋あるいは同じスペースでのソーラトンの施工は、できるだけ連続して行い、残った部分は日を置かずに取り付けてください。またその場合、同一ロットの商品を使用して行ってください。
- ・施工にあたっては、できる限り工夫して段違い、目違い、隙間、角欠けにならないよう注意して仕上げてください。
- ・空調設備機器の納まりは、事前に充分打ち合わせてください。
- ・施工後の電気照明、空調ダクト設備工事による、ソーラトンの落下損失被害も考えられますので、この点を留意して作業手順を決めてください。
また、ソーラトンおよび下地材のせっこうボードに照明等の設備を直接吊り下げないでください。破損や落下の原因となります。

9. 施工後の養生について

- ①施工完了後、少なくとも3昼夜はソーラトンへの衝撃や接触を避けてください。
- ②夜間は、外気との通風を遮断してください。
- ③施工完了後、空調設備機器の試運転をする場合、急激な負荷は避けてください。
- ④長時間空室になる場合は、高温多湿にならないよう充分気を付けて換気をよくしてください。
- ⑤ソーラトン表面の水拭き・空拭きは、表面塗膜を傷つけるためご注意ください。
- ⑥ボード表面のほこり等を取る場合は、ハタキ等でほこりを落として掃除機で吸い込んでください。掃除機の吸い込み口を直接当てると、表面が傷つく恐れがあります。